

## ■午前の出題内容

情報セキュリティの考え方はじめ、情報セキュリティ管理の実践規範、各種対策、情報セキュリティ関連法規などに加えて、ネットワーク、システム監査、経営管理などの関連分野の知識を問います。

重点分野	情報セキュリティ全般	機密性・完全性・可用性、脅威、脆弱性、サイバー攻撃手法、暗号、認証 など
	情報セキュリティ管理	情報資産、リスク、ISMS、インシデント管理などの各種管理策、CSIRT など
	情報セキュリティ対策	マルウェア対策、不正アクセス対策、情報漏えい対策、アクセス管理、情報セキュリティ啓発 など
	情報セキュリティ関連法規	サイバーセキュリティ基本法、個人情報保護法、不正アクセス禁止法 など
関連分野	テクノロジー	ネットワーク、データベース、システム構成要素
	マネジメント	システム監査、サービスマネジメント、プロジェクトマネジメント
	ストラテジ	経営管理、システム戦略、システム企画

## ■午後の出題内容

業務の現場における情報セキュリティ管理の具体的な取組みである情報資産管理、リスクアセスメント、IT利用における情報セキュリティ確保、委託先管理、情報セキュリティ教育・訓練などのケーススタディによる出題を通して、情報セキュリティ管理の実践力を問います。

## ■出題の特色

### Point 01 身近な事例をベースにした実践的な出題!

内部不正の防止、標的型攻撃対策、クラウドサービスの安全な利用、情報セキュリティ関連法規の制定・改正への対応など、組織を取り巻く情報セキュリティ面の環境変化や動向をタイムリーにとらえ、業務の現場で直面している事例に即した問題を出題します。

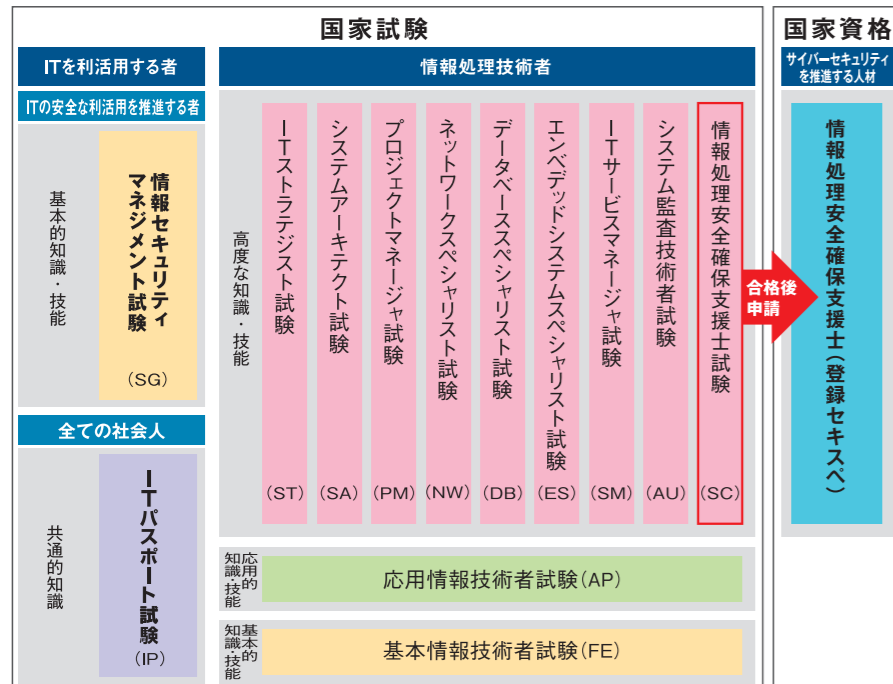
### Point 02 国際・国内標準や公的なガイドラインに基づく出題!

情報セキュリティマネジメントに関する国際規格の「ISO/IEC27000規格群」(及びそれに基づく国内規格のJIS Q 27000規格群)や公的なガイドラインである「組織における内部不正防止ガイドライン(\*)」が求めている管理策・対策などを積極的に取り上げます。

(\*)IPAのWebサイトから無償でダウンロードできます。

<https://www.ipa.go.jp/security/insider/>

## ■試験区分



## ■情報セキュリティマネジメント試験の試験時間・出題形式

時間区分	午前	午後
試験時間	90分	90分
出題形式	多肢選択式(四肢択一)	多肢選択式
出題数/解答数	50問/50問	3問/3問
基準点	60点(100点満点)	60点(100点満点)

採点方式については、素点方式です。合格基準は、各時間区分(午前、午後)の得点が全て基準点以上の場合に合格です。

## 国家試験

# 情報セキュリティマネジメント試験



部下

部長、不審なメールが届きました。  
本文に何かURLが書いてあります。

部長

君はいつもそうやって見た目で判断するんだな。  
不審かどうか、そのURLをクリックして  
確かめてみればいいだろう。



IPA

情報処理推進機構

少しでも不審を抱いたら、メールの添付ファイルや  
URLは不用意にクリックしてはいけません。  
システム管理者に連絡しましょう。

## ■お問い合わせ先

〒113-8663 東京都文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコートセンターオフィス15階  
お問い合わせはホームページ(<https://www.jitec.ipa.go.jp/>)右上の「お問い合わせ」から

**IPA** 独立行政法人 情報処理推進機構  
Information-technology Promotion Agency, Japan

## 推薦の声、活用事例等を公開中!

情報セキュリティマネジメント試験 紹介サイト  
<https://www.jitec.ipa.go.jp/sg/>

情報セキュリティマネジメント試験 検索

## あなたの会社は大丈夫ですか!?

**IPA** 独立行政法人 情報処理推進機構  
Information-technology Promotion Agency, Japan **CBT方式で実施**

#やってみようIT国家試験

IPA公式twitterにて過去問題を配信中!  
<https://twitter.com/IPAjp>

国家試験

# 「情報セキュリティマネジメント試験」とは？

ITの高度化やインターネットの普及が社会に様々な恩恵をもたらす一方、サイバー攻撃の手口はますます巧妙・複雑化し、社会全体に対する非常に大きな脅威となっています。

「情報セキュリティをいかに確保するか」は今や組織にとって大きな経営課題ですが、標的型攻撃、内部不正などの多種多様な脅威は、「ITによる対策（技術面の対策）」だけではなく、適切な情報管理、業務フローの見直し、組織内規程順守のための従業員の意識向上といった、「人による対策（管理面の対策）」についてもしっかりとした取組みが重要です。そのための情報セキュリティマネジメントを担う人材の育成をいかに推進していくかが、社会全体での課題であると言えます。

「情報セキュリティマネジメント試験」は、このような社会ニーズの高まりを背景に、国家試験「情報処理技術者試験」の新たな試験区分として創設されました（平成28年度春期から試験開始）。



機密情報を守り、ITの安全な利活用を推進する、情報管理の要となる存在が、強く求められています！

## 情報セキュリティマネジメント試験

情報セキュリティマネジメント試験は、情報セキュリティマネジメントの計画・運用・評価・改善を通して組織の情報セキュリティ確保に貢献し、脅威から継続的に組織を守るための基本的なスキルを認定する試験です。（共通キャリア・スキルフレームワーク（CCSF）レベル2相当）

部門全体の情報セキュリティ意識を高め、組織における情報漏えいリスクを低減する！

万が一トラブルが発生しても、適切な事後対応によって、被害を最小限に食い止める！

情報セキュリティを確保することで、より安全で積極的なIT利活用を実現する！

このような組織作りに欠かせない情報セキュリティマネジメント人材は、業種・職種を問わず、また、営業・企画・製造・総務・人事・経理などの部門を問わず、多くの現場で強く必要とされています。



## 次のような方に受験をお勧めします！

- Target 01 業務で個人情報を取り扱う全ての方
- Target 02 業務部門・管理部門で情報管理を担当する全ての方
- Target 03 外部委託先に対する情報セキュリティ評価・確認を行う全ての方
- Target 04 情報セキュリティ管理の知識・スキルを身に付けたい全ての方
- Target 05 iパス（ITパスポート試験）合格から、さらにステップアップしたい全ての方

情報セキュリティマネジメントを推進しているプロフェッショナルインタビュー

# Interview

富士ゼロックス株式会社 総務部情報セキュリティセンター センター長  
神林 彰さんからの推奨メッセージ

## 情報セキュリティの 基礎知識から管理能力まで バランス良く習得するのに 役立つ国家試験

富士ゼロックス株式会社において情報セキュリティマネジメントを推進されている神林 彰さんに、第一線で活躍するリスク管理のプロフェッショナルから見た、組織を取り巻く昨今の情報セキュリティリスクやその対策、「情報セキュリティマネジメント試験」の有用性やその活用法などについてお話を伺いました。



神林 彰さん  
かんばやし・あきら

FUJI XEROX

富士ゼロックス株式会社にてシステムエンジニア、ソフトウェア商品開発、情報システム開発などの業務を経て、現ポジションに就任。

### ITの進化に伴い、企業が抱える 情報セキュリティリスクが多様化

企業が抱える情報セキュリティリスクといえば、かつては、コンピュータウイルスや不正アクセスなどが中心でしたが、昨今では、標的型攻撃、内部不正による個人情報流出など、その内容は多様化してきています。また、全ての情報がネットワークでつながっている現代社会では、もはや自社内の対応だけでは、情報セキュリティが確保できなくなってきています。そのため、当社のように、お客様の重要な情報をお預かりするビジネスを展開している企業では、技術的・物理的な側面に留まらず、パートナーとなる企業とも連携して人的・組織的な側面でも情報セキュリティレベルを高めていくことが重要です。

当社は、2005年に個人情報保護法が全面施行されたのに伴い、情報セキュリティに関する専門部署を設置しました。現在、情報セキュリティを担当している情報セキュリティセンターでは、階層別社員教育によって、人や組織のマネジメントの強化に取り組んでいます。また、部門横断のセキュリティ対応チームを形成し、情報システムのセキュリティ強化や外部委託先の情報セキュリティレベルを評価し、高めていく取組みを行っています。これらに加え、レピュテーションリスクまで多角的に対応できるように、広範囲な課題対応活動を実施しています。

### 情報セキュリティリスクを排除していく 組織体制を整えることが重要

しかし、それでも十分だとは言いきれません。情報セキュリティやリスクマネジメントの担当者だけでなく、ビジネスに関わる従業員全てが、情報セキュリティに関する意識を高め、情報セキュリティ対策に関する一定の知識やノウハウを身に付けなければ、情報セキュリティリスクを完全に排除することは難しいのではないのでしょうか。また、適切な予防・事後措置を万全に実施するためには、全部門において適切な情報セキュリティ体制を整備することが必要だと考えます。

### ITを利用する全ての現場で活用してもらいたい、「情報セキュリティマネジメント試験」

新たな国家試験「情報セキュリティマネジメント試験」は、スタッフ部門や営業部門などのITを利用する全ての現場において、部門の業務遂行に必要な情報セキュリティ対策を担当する方たちが目標とするのに、最適な試験だと思います。なぜなら、この試験は、情報を安全に利用するための基礎知識から管理能力までバランス良く習得でき、最新の情報セキュリティ動向もキャッチアップしていける内容になっているからです。この試験にチャレンジする方たちが増え認知度が高まることで、情報セキュリティに関する意識やモラルの向上につながり、情報セキュリティが風土化することを期待しています。

当社の事例で言えば、営業・開発・生産など各部門が、固有の業務に対応する「部門の情報セキュリティ」を担っているのので、情報を扱う現場のエンジニアや営業、情報セキュリティ管理の推進を担う社員、外部委託先管理が必要な調達担当者にはぜひ受験してもらいたいと考えています。また、当社ではグループ会社を含めてiパス（ITパスポート試験）の受験を積極的に推進していますが、更なるステップアップを目指し、iパス合格者に対しても「情報セキュリティマネジメント試験」の受験を推奨していきたいと考えています。

### 企業の信頼性、成長を高めるためにも 必要不可欠な国家試験

一つの企業から漏れた情報が、多大な社会リスクとなる今、企業間取引においてパートナーを選ぶ際、組織的な情報セキュリティ対策や取組みが重要な評価基準の一つです。高い評価を得られることで、企業としての信頼性が向上し、さらなる企業の成長にもつながっていきます。その意味でも、企業全体の情報セキュリティレベルの向上が期待できる「情報セキュリティマネジメント試験」は必要不可欠だと言えるでしょう。全てのビジネスシーンで情報セキュリティマネジメントを徹底していくために、多くの企業にぜひ活用していただきたいですね。